

VR/AR

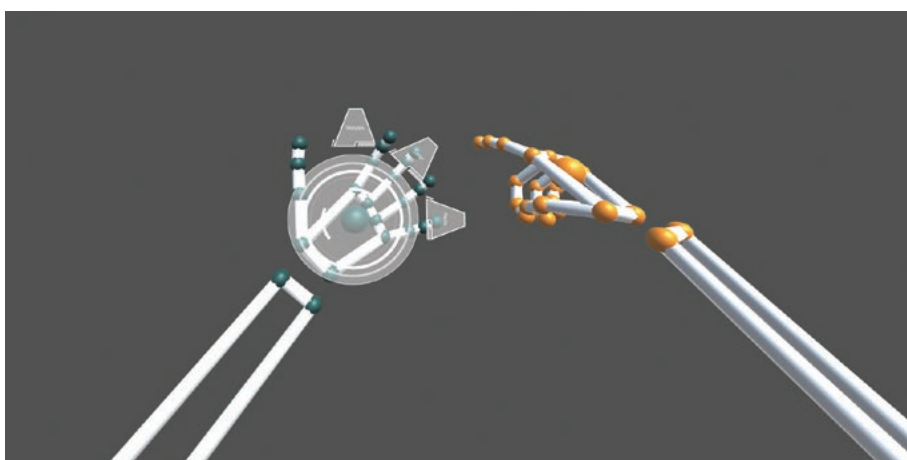
(ヴァーチャルリアリティ: 仮想現実
/ オグメントリアリティ: 拡張現実)
での新しいインターフェイスの提案

Unity

マーティン・コレヴ
デザイン情報コース

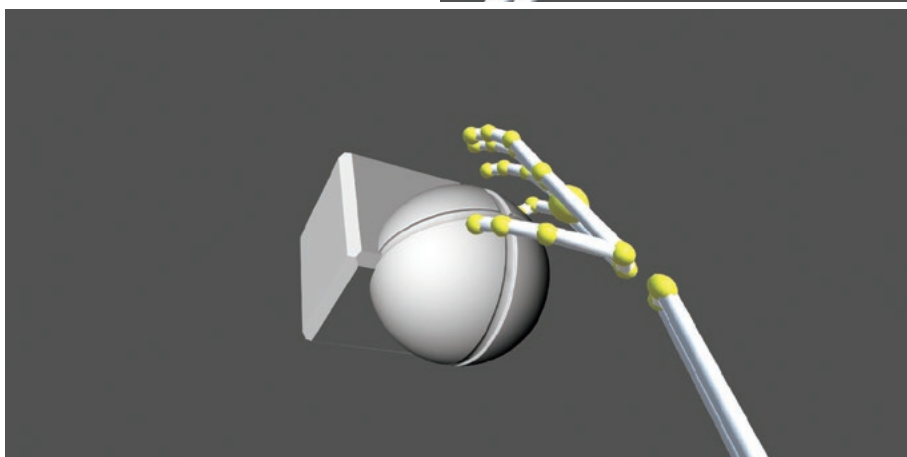
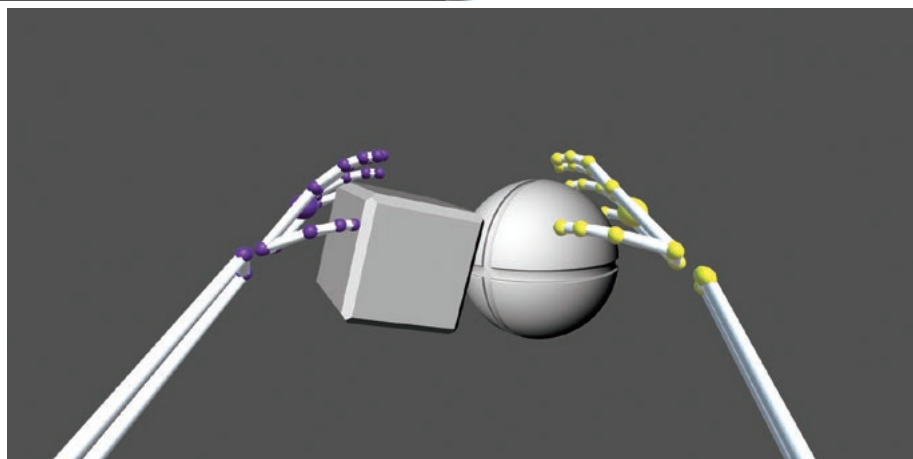
現在、物とインターネットがつながる IoT 時代の到来が広く語られている。その前兆である VR, AR をより多くの人に知ってもらえることが出来たらと思い本制作を行いました。一般的に VR・AR の操作では、「直感的」な操作法を用い、ヴァーチャル空間でも、現実と同じ自然な動きが出来ると言う事が重要視されています。

今回の研究制作では赤ちゃんが自然に遊ぶ動きに注目し、その動作をもとにインターフェースの提案・制作に取り組みました。赤ちゃんが積み木で遊ぶように、両方の手にそれぞれ異なるオブジェクト(立方体、球体など)を持ち、ぶつける様に合体させる。この動作を「合体機能」とし、オブジェクトだけではなく、色やテクスチャーなど様々なモノを合体させることによりオブジェクトにカラーを加えたり、素材を変化したりすることが出来るようにしました。



(1) メインメニュー，指で押しながらスライドすることで操作できます

(2) 形態オブジェクトの球体と立方体を手にもって、合体機能で合体させる



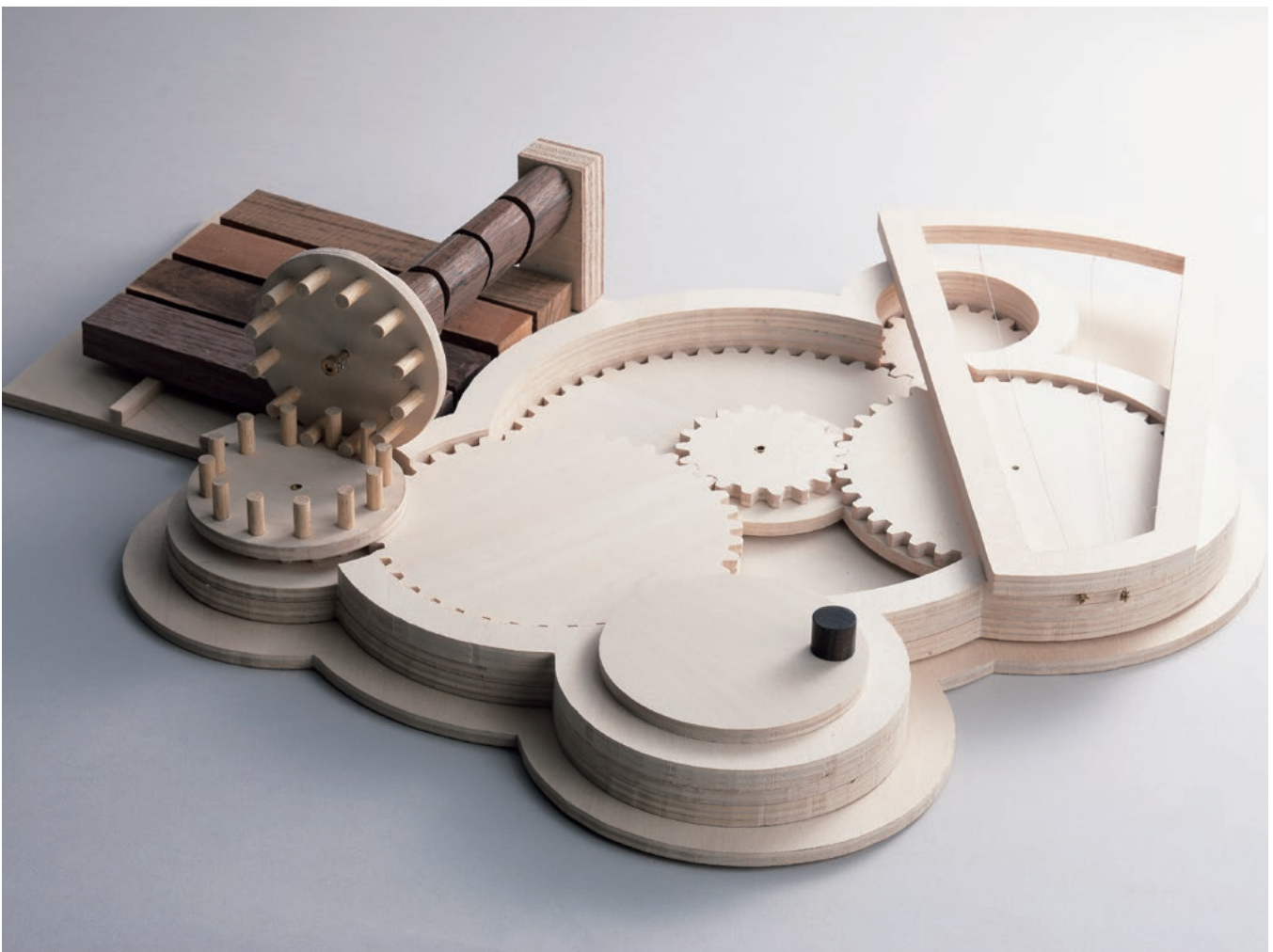
(3) 合体させたオブジェクト

Soundmechanism

—機構を用いて音を奏でる機械の制作—

シナ合板・一位・花梨・紫檀・オバンコール
鉄刀木・ブラックウォールナット・真鍮
h120×w490×d416mm

松本 一馬
デザイン工芸コース



Okajima, Yuki *Musical lotus*

奏蓮華

漆・錫粉・真鍮・銅・PLA樹脂・乾漆・3Dプリンター
h700×w440×d440mm

岡島 由季

デザイン工芸コース



漆装飾写本

—『聖ヤコブの書』より—

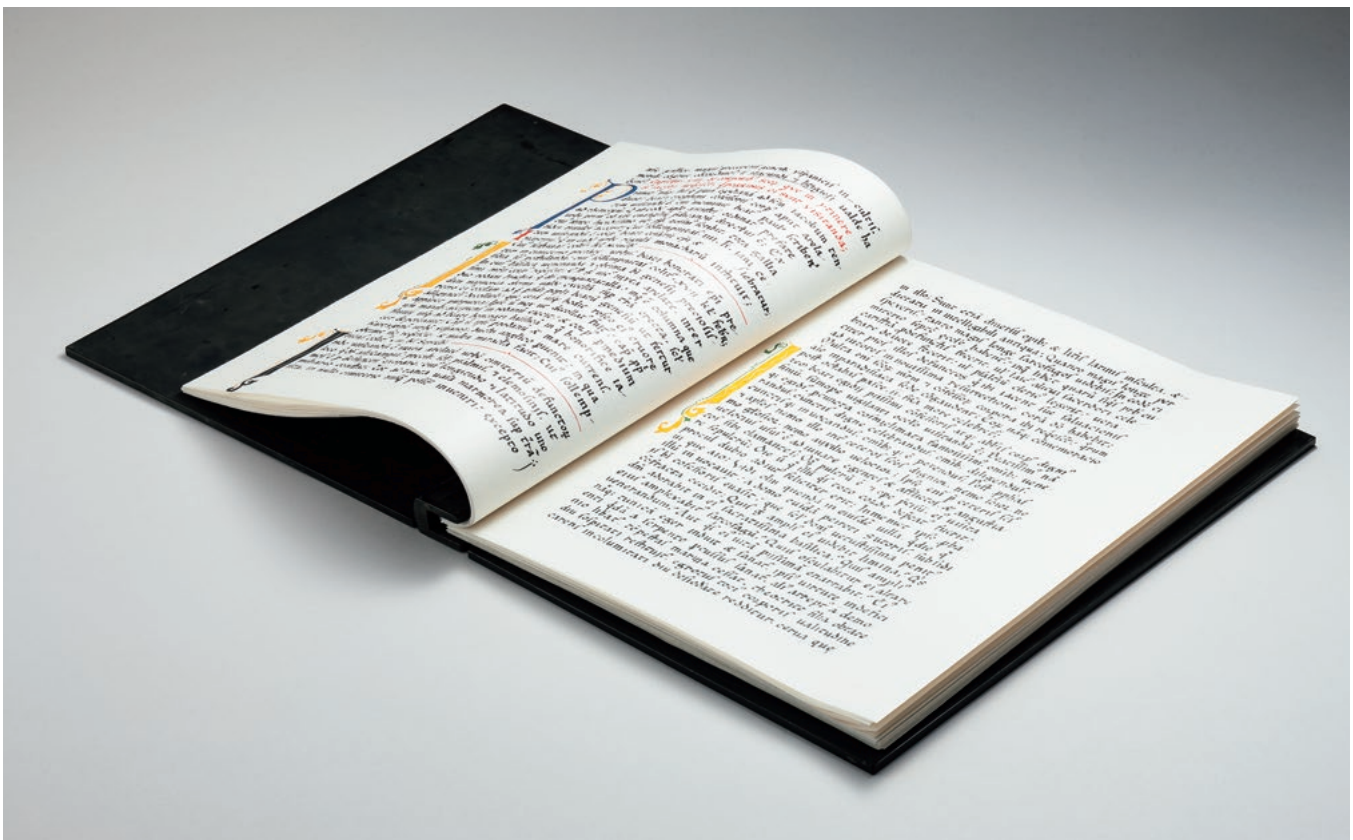
漆・木・貝・和紙・螺鈿・蒔絵
h20×w266×d326mm

小坂 真里江

デザイン工芸コース

我々はあらゆる種類の本を、安価に手にすることができる。だが、印刷が発明される以前は、本は手書きという手間をかけて作成された貴重なものだった。知識を記し、それを伝えてきた先人があればこそ、我々は過去の知識を得ることが可能となっている。そんな本という存在の重みを再確認するために、手作業による本の作成を行った。

モチーフとしたのは西洋の写本である。本文は12世紀の『聖ヤコブの書』（カリクステイヌス写本）より「第五書 巡礼案内記」を選んで書写を行った。聖地サンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼は中世に盛んとなった。現代においてもまた流行のきざしを見せている。一步一步進む巡礼者と、一字一字書写する写生字、また書かれた本に目を通す読者を重ね合わせた。



Moonshot

—三枚の響板をボディとする
エレキギター—の提案—

神代杉・神代樺・樺・黒柿・セドロ・
一位・真鍮・黒檀・シエラック
h950×w325×d95mm

東海林 正規

Shoji, Masaki

デザイン工芸コース

デジタルで音を作れる時代に、あえて楽器の本質について研究したいと考えたのは、60年以上変化の無かったエレキギターの構造に一石を投じたかったからである。

本研究では古楽器など他の楽器から、素材や構造、理論を学び、実験的に各所に導入した。また、一般的なエレキギターのように一枚の厚板をボディとして音を鳴らすのではなく、三枚の響板を一体化させた構造体をボディとし、それぞれの板を鳴らす新しい構造を提案している。造形においては、エレキギターの特有の平面的構成から抜け出すため、三次元的な形状を意識した設計にした。

